



British Embassy
Tokyo

日英科学技術セミナー：
「ダイバーシティと研究キャリア」
—優れた研究成果を生み出す研究環境とは？

拝啓 時下益々ご清祥のこととお喜び申し上げます。

駐日英国大使館は、2016年2月16日(火)の午後7時より、大使公邸にて日英科学技術セミナー「ダイバーシティと研究キャリア 優れた研究成果を生み出す研究環境とは？」を開催いたします。

社会に多大な恩恵をもたらす科学技術の発展、また地球規模の課題の解決のためには、優れた研究者の活躍と、多様な研究者が能力を発揮できる環境の整備が不可欠です。より多様化、流動化、国際化する研究環境の中で、研究者には環境に柔軟に適応できる能力とサポートが必要とされています。

優秀な研究者を育成・確保し、研究者が優れた成果を生み出せる環境を実現するため、各国では研究者の雇用や人材育成に関して、様々な取り組みが始まっています。本セミナーでは、日英両国におけるダイバーシティや研究キャリアを取り巻く状況や取り組みに注目し、優れた研究成果を生み出す研究環境とはどういったものなのか議論いたします。

英国の科学アカデミーである英国王立協会では、様々なバックグラウンド、視点や経験を有する研究者が存在する、多様性のある研究環境こそが、科学のイノベーションと創造性を最大限に発揮できる環境だと考え、様々な取り組みを行っています。また、日本では、来年度から5年間の科学技術政策の方向性を定める「第5期科学技術基本計画」に、具体的な指標として、40歳未満の大学教員を1割増加し将来的には3割以上にする目標や、新規採用に占める女性研究者の比率を自然科学系全体で3割にする目標などの数値目標が盛り込まれる予定です。

本セミナーでは、英国王立協会の副会長であるマーティン・ポリアクフ卿と、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンのウタ・フリス名誉教授(王立協会フェロー)より、ダイバーシティと研究キャリアに関する英国の状況や課題、王立協会のイニシアティブなどについてご講演いただきます。その後、日本の事例についてのご講演、日英のパネリストによるパネルディスカッションを予定しています。このセミナーが、研究者のダイバーシティやキャリア形成について日英両国で活発に意見を交換する機会となりますことを願っております。

皆様のご出席を心よりお待ち申し上げております。

敬具

駐日英国大使 ティム ヒッチンズ

記

日時: 2016年2月16日(火)19:00～21:00
受付開始：18:40～、会場受付にてお名刺を2枚ご用意ください
*入場無料。日英同時通訳付。

会場: 駐日英国大使館 大使公邸（千代田区一番町1）
(地下鉄半蔵門線 半蔵門駅4番出口より徒歩5分。次頁の地図をご参照ください。)

お申し込み:

本セミナーへの参加には事前申し込みが必要です。下記リンクよりお申し込みください。

お申し込み締め切り：2月12日(金)。定員に達し次第締め切りますので、お早めにお申し込みください。

<https://jp.surveymonkey.com/r/ukjapandiversity160216>



British Embassy
Tokyo

出席登録完了のお知らせはしておりません。定員に達しご出席いただけない方にのみ、ご連絡いたします。参加希望者の人数によっては、一機関からのご出席人数を調整させていただく場合がございます。なお、今回は学生・一般の方のお申し込みはご遠慮いただいております。恐れ入りますが、何卒ご了承のほどお願い申し上げます。

ご来館されるお客様にお願い:

ウェブリンク上でのご登録を済ませられた上で、当日は警備の都合上、本ご案内状コピーと、写真付の公的身分証明書(運転免許証もしくはパスポート、いずれも無い場合は健康保険証)をご持参の上、当館正面ゲートにてご提示ください。(名刺・社員証ではご入館いただけません。)お持ちでない場合、入館をお断りする場合もございますので、予めご了承願います。

駐車スペースが限られていますので、一般的な交通機関をご利用ください。運転手付きお車でご来館される方は車両登録が必要になりますので、必ず上記お申し込みリンク上で事前にご登録ください。

プログラム:

18:40	Door opens	受付開始
19:00-19:30	Refreshments served	(簡単なお飲み物等ご用意しております)
19:30	Opening remarks by the British Ambassador	英国大使より開会のご挨拶
19:35-19:45	Professor Sir Martyn Poliakoff	マーティン・ポリアコフ卿
19:45-20:00	Professor Uta Frith	ウタ・フリス教授
20:00-20:15	Presentation from Japanese speaker	日本からのスピーカー(調整中)
20:15-20:55	Panel discussion and Q&A	パネルディスカッション・質疑応答(パネリスト調整中)
20:55	Closing remarks	閉会ご挨拶
21:00	End	終了

*プログラムは当日変更となる場合がございます。予めご了承ください。

お問い合わせ先:

英国大使館科学技術部 吉田 (電話: 03-5211-1325 / メール: sachiko.yoshida@fco.gov.uk)

英国大使館への地図:





講師略歴：



マーティン・ポリアコフ卿

ノッティンガム大学 化学部 教授
英國王立協会 副会長(国際担当)
歐州科学アカデミー諮問委員会 副会長

マーティン・ポリアコフ卿は、グリーンケミストリーの分野で世界を牽引する研究者であり、専門は超臨界流体。高密度に圧縮されたこれらのガスは、ガスと液体の特性を有するため、健康や環境に被害を引き起こす有機溶媒を用いることなく、興味深い化学反応をおこすことが可能である。

ポリアコフ卿の研究は、工業分野で従来の有機溶媒に代わる超臨界二酸化炭素や水溶媒システムの開発に貢献してきた。また、英國王立協会の副会長(国際担当)として、英國の優れた科学的研究を代表し世界に発信する役割を担っている。

周期表の化学元素を一般の人々にわかりやすく紹介した「[The Periodic Table of Videos](#)」(元素周期表動画)にポリアコフ卿は参加しており、YouTubeに投稿されているこの人気シリーズは世界中で幅広く視聴され高い人気を得る。自身の卓越した研究成果と、英國科学のアンバサダーとしての役割やアウトリーチ活動などの貢献に対し、2015年に爵位を授与される。

英文の詳しい略歴は：<http://www.nottingham.ac.uk/chemistry/people/martyn.poliakoff>



ウタ・フリス 教授

ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン(UCL)
認知神経科学研究所 名誉教授

ウタ・フリス教授は発達心理学者で専門は自閉症と失読症。フリス教授が研究を始めた当時、これらの症状は心因性のものだと考えられていたが、その後フリス教授がそれらを脳や行動に関連付けた考え方を展開したことで、これらの脳疾患に対する主流な考え方へ変化がもたらされた。

自閉症の主な症状を説明するため、主要な理論のうちの二つである「メンタライジングの欠如」、「弱い中枢性統合」を提唱した。メンタライジングとは他者の信念や欲求などの精神状態に応じて瞬間瞬間の行動を推測する自動的能力である。自閉症の人々が広い視野で考えることが困難であるのに対し、細部に集中するのに長けており、また特殊な能力を生じさせることがあるのは、弱い中枢性統合に拠るものかもしれないと考えられている。

フリス教授は、科学における女性の活躍推進の支持者であり、女性科学者支援ネットワーク([support networks for female scientists](#))を創設した。また、神経科学研究の教育や生涯学習への応用に关心を持つ。臨床科学への貢献により、2012年に名誉大英勲章を授与される。

英文の詳しい略歴は：http://www.ae-info.org/ae/User/Frith_Uta/CV